



Kumamoto City

News Release

令和6年(2024年)10月2日

市民のみなさまへの注意喚起 ～マラリア患者の発生について（感染地域：南西アジア（推定））～

9月26日に、熊本市内の医療機関から熊本市保健所に対して「マラリア発生届」が提出されました。患者は熊本市南区の40歳代の男性です。熊本市保健所の聞き取り調査の結果、感染地域は南西アジアと推定しています。

マラリアは、蚊に刺されることで感染するため、感染予防対策として蚊に刺されないようにすることが重要です。特に熱帯・亜熱帯地域に渡航予定の方は、長袖、長ズボンを着用し、定期的に虫除けスプレー等を使用し、蚊に刺されないよう注意してください。

1. 患者に係る情報

40歳代、男性、熊本市南区

※熊本市の患者としては、令和6年(2024年)1月以降において初めての事例となります。

2. 経過

9月17日まで南西アジアに滞在

9月18日 発熱(38℃台)の症状あり。南西アジアから日本に向け出国。

9月20日 入国。

9月21日 発熱継続のため、市内の医療機関Aを受診。解熱剤の処方あり。

9月26日 発熱、倦怠感、関節痛の症状あり。

医療機関Aの紹介により、市内の医療機関Bを受診。

医療機関Bにて検査を実施した結果、マラリアの陽性判明。

医療機関Bから市保健所へ発生届が提出される。その後、入院。

9月27～29日 医療機関Bにて抗マラリア薬の処方あり。

9月30日 症状軽快のため、退院。

※感染地域は、南西アジアと推定

3. 患者の発生状況 ※令和6年(2024年)第1～38週(1月1日～9月22日)時点
全国 38件、熊本県 0件、熊本市 0件

4. 【注意喚起】熱帯・亜熱帯地域に渡航される方へ

マラリア原虫を媒介するハマダラカは、主に夕暮れから明け方にかけて活動します。長袖・長ズボンを着用し、できる限り肌の露出を少なくしましょう。また、定期的に虫除けスプレー等を使用し、蚊に刺されないよう注意してください。

5. マラリアについて

マラリア原虫をもった蚊（ハマダラカ属）に刺されることで感染する病気です。マラリアは、世界中の熱帯・亜熱帯地域で流行しており、2022 年 12 月に公表された WHO の最新の世界マラリア報告によると、2021 年の 1 年間に約 2 億 4700 万人が感染し、推計 61 万 9,000 人が死亡しています。マラリア原虫を媒介するハマダラカは、日本国内にも生息していますが、蚊の生息地が自然豊かな場所（湿原、沼や水田）であり、近年では、環境変化、一般家屋への網戸の普及、マラリア患者の多くが都市部に居住している等の状況から、国内感染の可能性は低いと考えられています。潜伏期間は 1 週間から 4 週間ほどで、発熱、寒気、頭痛、嘔吐、関節痛、筋肉痛などの症状が出ます。

【お問い合わせ先】

健康危機管理課

電話：096-364-3311

課長：迫田 貴美子（さこだ きみこ）